

2024年 3月 28日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	棚橋 玄	所属	建築学科研究室
		職位	助手

研究課題	アメリカの近代住宅を中心とした建築の視察・調査
研究先機関	グッゲンハイム美術館・落水荘・キンベル美術館・ソーク研究所・イームズ自邸・シーランチなど
主な滞在地 (国・都市名)	アメリカ [ニューヨーク・ピッツバーグ・フォートワース・ロサンゼルス・サンフランシスコなど]
渡航日程	2024年3月16日(土) ~ 2024年3月27日(水) (12日間)
研究目的・理由	これまで幾つかの住宅の現場に携わり、今後も住まいの設計を軸に活動を展開していく。近代における住宅建築の優れた作品が集まるアメリカを訪ね、数多くの事例の視察を通して、その知見を広げたい。
研究成果発表予定 (展覧会、著書、論文発表等)	研修報告のレクチャーなど

<p>研究内容</p>	<p>近代アメリカ建築の中でも、特に住宅建築を中心として数多く訪ね、その風土や環境を含めて、実際に身を置いて経験することを主眼とした。建築家としては、フランク・ロイド・ライトとルイス・カーンの作品を重点的に視察することとした。</p> <p>ライトの住宅では落水荘、ケンタックノブ、ホリホックハウスを視察したが、どの建築においても部分的に、想像していたものよりもずっとヒューマンスケールに絞られた寸法で構成されており、空間の抑揚を効かせながら伸びやかに空間が目まぐるしく展開され、写真で捉えていたものよりもずっと親密な居心地の良さが感じられた。</p> <p>イームズ自邸やシーランチでは、あらためて建築の構成自体だけではなく、それらが建つ環境全体も含めて捉えることの必要性を考えさせられた。それはやはり写真や図面だけでは追うことがどうしても出来ず、実際にその場に立つことではじめて一瞬で了解されるような、ことばに還元出来ない類のものでもある。</p> <p>今回の視察は、これまで以上により実感を伴って対象の建築を捉え直し、今後の分析や作品に還元していけるような、得難いものとなった。そしてまた、各所の建築を巡るということを通して、アメリカという国の多様性や混沌、様々な都市ごとに感じる空気感の違い、そういったものを肌で感じられたことも大きな経験であった。</p>
<p>大学授業における研究成果の還元</p>	<p>講義授業において、視察した建築を紹介</p>

研究日程（全滞在期間）

出発日 (現地時間)	出発地 (国・都市名)	到着日 (現地時間)	到着地 (国・都市名)	研究内容等	滞在 日数
3/16 (土)	羽田 [日本]	3/16 (土)	ニューヨーク [アメリカ]	グッゲンハイム美術館・ ジャパンソサエティー・ MOMA・イサムノグチガ ーデンミュージアム 視察	3
3/19 (火)	ニューヨーク	3/19 (火)	ピッツバーグ	落水荘・ケンタックノブ 視察	1
3/20 (水)	ピッツバーグ	3/20 (水)	フォートワース	キンベル美術館 視察	1
3/21 (木)	フォートワース	3/21 (木)	サンディエゴ	ソーク研究所 視察	1
3/22 (金)	サンディエゴ	3/22 (金)	ロサンゼルス	イームズ自邸・ ホリホックハウス 視察	1
3/23 (土)	ロサンゼルス	3/23 (土)	サンフランシスコ	モントレイベイ水族館 視察	1
3/24 (日)	サンフランシスコ	3/24 (日)	アナポリス	シーランチ 視察	1
3/25 (月)	アナポリス	3/25 (月)	サンフランシスコ		1
3/26 (火)	サンフランシスコ [アメリカ]	3/27 (水)	成田 [日本]		1

以上